九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Biological heterogeneity of obsessive-compulsive disorder : A voxel-based morphometric study based on dimensional assessment

近藤, 佳代

https://hdl.handle.net/2324/1522378

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

氏　　名	近藤（岡田）　佳代
論　文　名	Biological heterogeneity of obsessive-compulsive disorder: A voxel-based morphometric study based on dimensional assessment
論文調査委員	主　査　九州大学　教授　本田　浩 副　査　九州大学　教授　須藤　信行 副　査　九州大学　教授　吉良　潤一

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

背景：強迫性障害に関する多くの脳画像研究によりその広範囲に及ぶ脳灰白質病変が指摘されてきたが、その結論は未だ一致していない。この不一致の理由の一つに、強迫性障害の多様性があげられる。今回の研究で著者らは、脳の解剖学的変化を強迫性障害の亜型により分類することを目標とした。

方法：3 テスラの核磁気共鳴画像(MRI) 処理装置を用いて、37 名の強迫性障害患者と 37 名の適合させた健常対象者の脳画像撮像を行った。ボクセル単位形態計測にて、前処理を施した灰白質形態画像を用いて二つの集団の比較を行い、また、強迫性障害患者の局所的な灰白質と強迫症状の亜型との関連を調べる為、相関解析を行った。

結果：健常対象者と比較して強迫性障害患者で左前頭前野、右前頭眼窩面、右頭頂葉、右側頭葉、右後部帯状回に有意な体積減少を認めた。加えて、症状亜型別重症度と局所的な灰白質体積に負の相関が認められた。主に、“攻撃性・確認”症状と右小脳体積の減少、“汚染・洗浄“症状と右島皮質体積の減少である。

結論：強迫性障害の病態生理には広範囲な脳神経基盤が関与している可能性がある。症状亜型と形態異常にはそれぞれ関連があることが示唆された。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格とした。